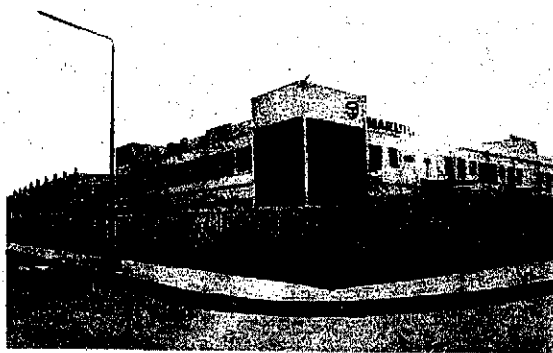


2012年(平成24年)1月7日 土曜日



バンクラアッシュで操業を始めた丸久の生地工場
(同社提供)

久 丸 バンクラ生地工場稼働

一貫生産 縫製・プリント増強へ

アパレルメーカーの丸久(鳴門市)がバンクラアッシュで建設を進めていた生地工場が完成し、本格操業を始めた。生地製造から縫製加工まで一貫した生産体制が国内で実現したことで、一層の効率化と品質向上が図られる。さらに1月末にも縫製・プリント工場の増設に着手する予定で、従業員2千人規模の一大生産拠点が出来上がる。

生地工場(延べ7670平方メートル)は、首都圏外郊外のタタムジー輸出加工区に構える縫製工場隣に増設。生地の繰り立て工場(鉄筋2階建て)と、染色工場(鉄骨一部2階建て)、汚水処理施設で構成されており、染色工程で月産120万枚(Tシャツ120万枚分)の生産能力がある。新たに現地で1200人を新規採用し、バンクラ工場の従業員は合わせて1100人になった。今月末からは既存工場

の増設工事に入る予定。現在の2階建てから4階建てに建て直し、縫製・プリント機能を増強。生産能力と雇用人数を二気に倍増させる計画で、9月の完成を目指す。丸久によると、バンクラアッシュで生地から衣料

品まで一貫した生産工場社やメーカーなどから生を構える日系企業は、東地購入の引き合いが続いており、業績の大きな期待を感じていると話している。

丸久のバンクラアッシュ工場は2010年6月に操業開始。タイや中国に海外工場を構えているが、資金上昇や政治問題などの「中国リスク」を避けるために国内に進出した。バンクラ工場では主に量販大手のイトーヨーカ堂やイオン向けのプライベートブランド商品を手掛けている。(廣井和也)